

普及活動情勢報告（平成20年8月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

普及指導員と営農指導員が地区別の課題及び目標を共有化



8月5日に目標設定シートを活用し、JA土佐あきの営農指導員と地域の課題や対応策及び活動目標について協議を行った。

これまでは、普及や農協それぞれが計画を立てそれを共有するものがほとんどであったが、今回、同じテーブルにつきブロック別に「いつまでに何をどうする」かについて協議を行い目標設定シートを作成した。会議の最後には、各ブロックから目標設定シートをもとに今後の活動目標を発表し、意見交換を行った。

今後は、作成した目標設定シートの内容を着実に実行していくよう互いが協力・役割分担を行い、産地の振興に向け切磋琢磨しながら取り組んで行く。

農地（水田）有効利用のためのブロッコリー講習会Ⅱを開催～東洋町野根地区より～



栽培希望者の3名

今年1月に続き2回目の講習会をJAと連携し7月23日に開催した。

今回は、6月の稲作部会で栽培への呼びかけを行った結果、3人が手を挙げその栽培希望者を対象に実施。振興センターからは育苗を中心とした栽培管理のポイントを詳細に説明した。

希望農家から「効率的に播くには？播く時期をずらすか？畝の高さは？」等具体的な質問があり、3人はやる気漫々である。

8月中旬から栽培が始まるが、JA・町と連携を取りながら巡回指導、現地検討会、先進地視察を計画し、ブロッコリー栽培の成功を目指す。

土着天敵利用に向けて、部会みんなで“吸虫管”づくり



ペットボトルやネットの端布などを使って、吸虫管づくり

安芸集出荷場研究会ピーマン類・シシトウ部会では、天敵温存ハウス等を設置して、土着天敵の有効利用に取り組んでいる。

8月13日の定例部会では、土着天敵を効率的に捕獲できるよう、11名の部会員が“吸虫管”を作成した。

始めはとまどっている参加者の姿も見られたが、振興センターが作成した手引き書と見本を参考にしながら、格闘すること約20分。全員が吸虫管を完成させた。材料は全て身近にある物を利用しており、参加者からは「作り方が分かったので、家でもう一つ作ってみる」「夏休みの宿題で、子供に作らせようか」といった声が聞かれた。

部会では9月～10月にかけて野外採取を予定しており、今回作成した吸虫管が大いに活躍しそうである。

定直前に土佐鷹の栽培講習会を開催



H21 園芸年度の土佐鷹栽培講習会を安芸地域の各地区（7 日芸西参加者 20 人、8 日赤野 4 人、安芸 8 人、13 日中芸 15 人、19 日穴内 6 人）で開催した。講習会の目的としては、定植前に土佐鷹のポイントとなる栽培管理と栽培するイメージを生産者に持ってもらうことである。また現地検討会を 9 月から毎月行う地区もあり、土佐鷹の面積拡大に向けて少しずつではあるが確実に取り組みが進んでいる。

生産者の反応は各地区で異なり、参加者が多く土佐鷹の栽培に対して熱心に質問をする地区と参加人数が少なく質問があまり出なかった地区などもあり、地区ごとで土佐鷹に対する温度差を感じた。これから安芸地域として、取り組みをまとめていくことが必要である。

家族一緒に、経営改善を考えよう！



「このまま何もしないと、
所得は半分！」にショック

8 月 22 日、安芸集出荷場女性部総会が開催され、安芸農業振興センターから「農業経営の現状と課題」と題した講演を行った。売上・経費の話だけでなく、安芸集出荷場が取り組んでいる ①系統率向上 ②エコシステム栽培 ③GAP・生産履歴記帳 についても、経営の視点から紐解いて話をした。

色々な取り組みを行ううえで、成功の鍵を握るのは「家族一丸となって」取り組むこと。「そのためには是非、目標設定シート（＝家族経営協定書）の作成を！」と、関係機関とともに強く呼び掛けた。

講演終了後には早速希望を申し出る人もおり、予定では来月末に関係機関と農家（夫婦もしくは親子）で面談を行い、農家毎の経営改善目標を立てることになっている。

産地のあり方を考える～JA土佐あき果樹部東洋支所柑橘部総会の開催～



担当者の市場動向説明に
耳を傾ける部会員

7 月 30 日に JA 土佐あき果樹部東洋支所柑橘部通常総会が開催された。総会の中で以前から議論されていた選果機について正式に検討することが決定された。また、総会終了後、岡山大同青果担当者から岡山市場における果実の動向について説明とその後の質疑応答を行った。

農家からは、ここ何年も市場関係者からの話が聞けなかった分、ポンカンの動向等について活発な質問が出された。

今後は選果機について検討していくことを通して、産地としての将来像を皆で検討していく。

北川村で「久江ノ上・島地区を考える会」の活動がスタート！



真剣に議論中！！

北川村久江ノ上・島地区では、8月8日集落の代表者が集まり「久江ノ上・島地区を考える会」を発足した。

まず、地区内の状況を把握するため、地区に関係する20歳以上の地区内・外在住者を対象にアンケート調査を実施した。

調査結果では、当地区が高齢化は進んでいるが、在住者はユズにかける思いが大変強く、また地区外の在住者も退職後、帰農希望者が多い地区であることが明らかとなった。

今後は、8月中旬に第3回の考える会を開催し、土地の利用計画や具体的な集落ビジョンに取り組んでいく。

土着天敵活用に取り組むナス生産者グループを支援～室戸市羽根地区より～



農薬の取り扱いは難しいな

8月13日、22日、振興センターでは、JA土佐あき羽根支所管内でコナジラミ類対策に取り組んでいるナス生産者グループを対象に、土着天敵の管理技術講習会と繁殖ハウスで現地研修を実施した。羽根支所管内では2グループ（エコシステム導入農家5戸、深層水なす栽培農家8戸）が取り組んでおり、計12名が参加。農家からどのように増殖させたいのか”“害虫が発生したらどうするのか”“これが土着天敵の幼虫や”など多くの意見が出された。振興センターでは今後も月1回、同様な研修会を実施し、土着天敵を活用した新たな害虫防除対策の確立を目指す。

環境保全型農業の推進に向けて第1回勉強会



第1回勉強会（穴内地区）

安芸市が実施している平成20年度環境保全型農業推進事業の第1回勉強会が、8月1日～13日にかけて、安芸市の6会場で開催された（参加延べ人数70名）。

まず、市から平成19年度の事業対象者に実施した、天敵活用の成否や活用のポイント等についてのアンケート結果が紹介された。

また、全農家から個々の圃場で行った昨年のIPMの取り組み内容や、害虫（コナジラミ・スリップス）と天敵の発生経過を発表してもらった。その後、昨年の反省をふまえて本年度は、どのように取り組むのか意見を聞き、全員で協議や助言を行うなど情報の共有ができた。

農業振興センターとしても生産者間の情報の共有を積極的に支援し、環境保全型農業の推進を行う。（第2回勉強会は、野外で土着天敵採集を行う予定である。）